

Governor's Monthly Letter

ガバナー月信

2025

7

July

Vol.1

発行 / 7月1日

「みんなでつなぐ、育てる、
ロータリーリレーションシップ」

Governor's Voice

「つながる」



国際ロータリー第 2720 地区
2025-2026 年度ガバナー

藤田 千克由



2025-26 年度国際ロータリー会長

フランチェスコ・アレツォ氏（イタリア、ラグーザ・ロータリークラブ所属）

よいことの
ために
手を取りあおう

地区重点課題

- ①コミュニケーションの強化
- ②地域社会との連携
- ③会員増強戦略の推進
- ④クラブ・地区の危機管理意識の向上
- ⑤クラブ・地区計画の推進と普及

目次

- | | |
|--------|----------------------|
| P2 | ガバナーメッセージ |
| P3 | 地区方針 |
| P4~7 | お宝発掘シリーズ |
| P8~10 | OKE クラブのあゆみ |
| P11~13 | 会員数報告 / 今月の予定 / 入退会者 |

Governor's Message

国際ロータリー第 2720 地区
2025-2026 年度ガバナー

藤田 千克由

国際ロータリー第 2720 地区、2025-26 年度では、スローガン「みんなでつなぐ、育てる、ロータリーリレーションシップ」のもと、団結と共感を育み、クラブと地域、そして個人の成長を目指します。

クラブ同士の「つながり」として、居酒屋ミーティングをはじめとする懇談の場を通じて信頼関係を深め、会員同士の理解と絆を強化します。また地域社会との連携として、こども屋台や RCC の設立、全国 RYLA 研究会開催等により、新たな参加層の拡大を図るとともに、ロータリーの公共イメージを高め、会員増強への可能性を広げます。

さらに情報共有と学び合いの強化を目的に、出前セミナー制度の活用と全地区委員の育成、パストガバナーによる助言体制を整備していきます。それらの活動の中で生まれる共感やつながりが、ロータリーの理念を伝える力となり、新しい仲間を迎える契機となることと信じています。

各クラブの成果は途中経過を含めて可視化・表彰されることで、次年度への計画策定に活かされることでしょう。

「つながる」ことで深い信頼と友情が生まれ、視野と可能性が無限に広がります。この一年、皆さん一人ひとりがその実感を持てるよう、共に歩んでいきましょう。



よいことの
ために
手を取りあおう



2025-2026 年度 地区ガバナー方針

2025 ～ 26 年度の国際ロータリー第 2720 地区のスローガンは

「みんなでつなぐ、育てる、ロータリーリレーションシップ」

スローガンの意義

次年度のスローガンは、団結と協力の重要性を強調し、地域社会の成長を促します。

つなぐ

「つなぐ」はメンバー間の関係を築くことを示し、協力的な精神を育むことを意味します。

育てる

「育てる」は人々やリーダーシップを育成することに焦点を当て、持続可能な発展を目指します。

地区活動方針

- コミュニケーションの強化
- クラブ・地区の危機管理意識の向上
- 地域社会との連携
- クラブ・地区計画の推進と普及
- 会員増強戦略の推進

つなげるプロジェクト 1

- part.1 居酒屋ミーティング
(次年度会長幹事懇談会)
- part.2 出前セミナー (課題解決支援アプローチ)
- part.3 クラブ公式訪問 (課題確認)
- part.4 会長幹事懇談会 (ディスカッション方式
で DL はガバナー補佐が行う)
- part.5 こども屋台出店 (友愛の広場にて子ども
たちが料理の提供)
- part.6 地区大会表彰 (会長・ガバナー補佐・部
門長のライン表彰)
- part.7 エンドポリオイベント

つなげるプロジェクト 2

1. クラブ・ガバナー補佐
2. アドバイザー
3. 地域リーダー
4. 地区リーダー・委員
5. 同期ガバナー
6. 地域のためにいいことを実践している団体
7. ガバナー (年度をまたいで)



「人類はひとつ」 ～みんなでつなぐ、育てる、 ロータリーリレーションシップ～

向笠廣次氏の精神をいま、受け継ぐ ——RI 会長を支えた主治医・川島真人氏に聞く——

寄稿：地区副幹事 植山朋代

1993-94 年度、日本人として 2 人目の国際ロータリー会長に就任された向笠廣次（むかさ・ひろつぐ）氏。彼が掲げたテーマは、「Mankind is One（人類はひとつ）」でした。

この言葉には、国や宗教、文化、立場の違いを超えて、すべての人間は深いところでつながっているという信念が込められていました。それは、氏の人生そのものから生まれた哲学であり、ロータリーを通じて世界に希望を届けるためのメッセージでした。

向笠氏は、病を抱えながらも、それを乗り越えて世界中を訪問し、行動する奉仕の象徴となりました。

そして、その姿を誰より近くで支えたのが、整形外科専門医であり氏の主治医でもあった川島真人氏です。今回、その川島先生にお話を伺いました。



1993-94 年度 RI 会長
向笠廣次 氏

「世界中の人々はみんないとお同士」



会長就任のご挨拶

橋を架けることは必ず実現できる」と強く訴えたのです。

川島氏はこう振り返ります。

「向笠さんの言葉には、理想論ではない確信がありました。人を信じて、耳を傾け、手を取り合えば、理解し合える。その信念を彼は生涯貫きました。」

RI 会長として訪問した国々で向笠氏はこう語りました。

「人類はひとつ、世界中に友情の橋をかけよう。みなさん、世界中の人々はみんないとお同士なのです。周囲の人と握手をしましょう！」

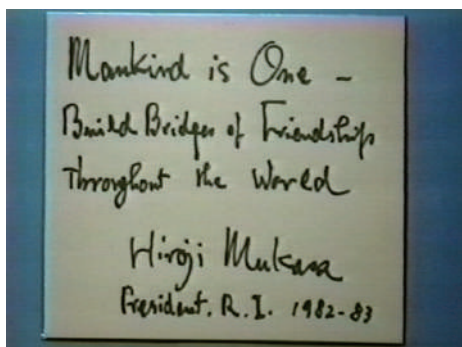
この率直であたたかい言葉は、多くのロータリアンの心を打ち、行く先々で感動の波が沸き起こったと聞きます。向笠氏の直前の RI 会長が掲げた「ロータリーを通じて、世界理解と平和を」というテーマに深く共鳴し、「ロータリーのすべてのプログラムを通じて友情の

苦しみを超えて、人に寄り添う力に

向笠氏は、1911年11月9日に久留米で生まれました。父親が軍医だったため、小倉からソウル、水戸、久留米と転居して、中学は私立東京中学校に入学し、4年生の時に旧制山形高等学校に入学しました。市が19歳の時に父親が亡くなったのが氏の困難の始まりでした。その後、九州大学医学部に入学しますが、在学中に結核性胸膜炎で1年間休学しています。

そんな向笠氏に希望を与えてくれたのが、ヨット部でした。氏は九州大学にヨット部を創設し、ヨットを通じて体力と精神力とを鍛えました。また、操船だけでなく『ヨット競技戦術集』（マンフレット・カーリー著・ドイツ）という本を和訳して日本に紹介するほどの入れ込みようだったようです。

九州大学を卒業と、大学病院の精神科に5年間在籍し、その後中津で開業の道を選びました。しかしながら、向笠氏は、嫌酒薬シアナマイドの発見者として知られ、また、電気けいれん療法(ECT)を日本に紹介・普及させた功績で世界的に評価された医学者でもありました。専門的知見と臨床現場の経験を活かし、医師としても「心に寄り添う」ことを何より重視しました。



向笠氏自筆

その背景には、やはり自身の苦しみがあったと思われます。大学在学中には結核性胸膜炎で長期入院を余儀なくされたほか、若くして慢性関節リウマチを発症しました。手首やひざの激しい痛み、関節の変形、運動制限などの辛い症状とともに生きながら、RI会長となっても、痛む手首で世界中のロータリアンと握手を交わし、膝の痛みをこらえて訪問を続けたのです。

「あの手での握手は、普通の握手ではなかった。生きざまの込もった、魂の握手でした。」と川畠氏は語ります。



川畠真人氏

医師として「渡航は無理」と思った、それほどの状態だった

当時のリウマチ治療はまだ発展途上で、「金イオンの注射と、あとは痛み止めの服用くらいしか有効な手立てがなかった」と川畠先生は振り返ります。

「正直に言えば、ガバナーになるために渡米した1967年の国際協議会の時点で、すでに病状は海外渡航を許可できる状態ではなかった。医学的には“無謀”という言葉が浮かぶほどです。」

しかし、向笠氏はアメリカでの国際協議会に金イオンの薬剤を自ら持参し、自分で注射してでも行くという強い意志を示しました。



ダラス国際大会の最終日壇上にて（1983年6月）



会長時代草間氏と世界を訪問

その情熱に、私は医師として、友人として、負けてしまいました。」

痛みに耐えながらも、 笑顔で握手し続けた姿

川畠先生は、その後 RI 会長として世界を飛び回る向笠氏の姿をこう語ります。
「関節は固まり、手首はほとんど動かなかった。それでも軟骨が溶けて激痛がはしるその手でひたすら握手を続けた。ひざの痛みに顔をゆがめ

ながら、壇上に立ち、スピーチを行った。」

当時のリウマチ患者の寿命は、発症から8～10年が一般的。長時間の移動や講演、会議はもとより、日常生活ですら困難を極めたはずです。

それでも向笠氏は、身体の痛みよりも「人とつながる喜び」を選び続けたのです。

世界の片隅に目を向けるまなざし

向笠氏は1957年に中津ロータリークラブに入会し、入会と同時に幹事を3年間務めたそうです。1962年には会長に就任し、青少年奉仕に関心を持ち、地元大貞にある養護施設、中津ドン・ボスコ学を度々訪問しては恵まれない子どもたちの一日父親になるほど熱心に奉仕活動をされた方でした。RI 会長となつてからは、訪問国の選定においても意志を貫き、インドやアフリカなど、多くの発展途上国を積極的に訪問されました。

「華やかな国際都市よりも、苦しんでいる人がいる場所を優先された。それが向笠さんらしさでした。」

現地の子どもの瞳に、未来の光を見出しながら、氏は「人類はひとつ」という信念を行動で証明したのです。

「あなたがいるから、私もやれる」

現在80歳を迎えながらも、川畠先生は国内外を飛び回り、医師として精力的に活動を続けています。その原動力は何かと問うと、川畠先生は即座にこう答えました。



ダラス大会 会長へ



会長時代のデスク

「向笠先生というお手本がいたからです。自分の体に鞭を打って、世界に希望を届けていた。その姿を見ていたから、今の私も“これくらいでは休めない”と思えるんです。」

信念が身体を動かした

「Mankind is One（人類はひとつ）」——それは、理想を語る言葉ではなく、自身の痛みと引き換えに信じ抜いた真理でした。

向笠廣次氏の生きざまは、奉仕とは何か、人を思うとはどういうことかを私たちに教えてくれます。

川畠真人先生の証言から浮かび上がるのは、信念が身体を超える力を持つこと、そして本物のリーダーシップとは、どれだけ多くの人の心を動かしたかだということです。

彼の痛みをともなった一步一步が、今も世界に友情の橋を架け続けているのです。

向笠氏の生きざまは、ロータリーの普遍的価値を次世代へと伝える灯火です。今を生きる私たちもまた、向笠氏の志を継いで“人類はひとつ”の橋を築き続け、そして今年度藤田ガバナーが強く語る「人とのつながり」をつむぎ続ける使命を担っているのではないのでしょうか。



中津駅の碑にて向笠夫婦で撮影



理事会にて

※画像提供：川畠真人氏

「Inspire and Action」

——時代に応える革新と、心をつなぐ奉仕のかたち

～ E クラブとしての行動計画から～

「Inspire and Action

私たち E クラブは、国際的・文化的・人道的な活動を行い、年齢・性別・国籍を問わず、誰もが活躍できる多様性の高い社会の実現を目指します」

——これは、私たち 2720 Japan O.K. ロータリー E クラブが掲げるクラブビジョンです。最初にみんなで策定したのは 2022 年ですが、昨年度末のクラブ戦略委員会でマイナーチェンジを行い、クラブ協議会で承認されました。「仲間にインスピレーションを与え、行動を起こす」ことを軸に、私たちは多様な背景を持つ仲間とともに、革新と奉仕に満ちたクラブ運営を行っていこう、という願いを込めています。私はこのクラブビジョンが大好きです。

2017 年、日本で 12 番目の E クラブとして当クラブは発足しました。昼間の例会に参加できずロータリーを諦めかけていた人々、そして日本全国・海外に住む多様な会員が集まっています。創立時 42 名でスタートした会員は徐々に増え、2025 年 6 月末現在は、スリランカ、ベトナム、タイ、中国出身の会員を含む 61 名が在籍。女性会員も 16 名おり、年齢や性別、国籍を越えた真の多様性を体現するクラブとして活動しています。

みなさんは、オンラインクラブと聞いて、どんな印象を受けますか？クラブ創設当初はオンラインクラブに対する国内の風当たりが強い時代でした。「オンラインクラブなどロータリーではない」と厳しい声を浴びたこともありましたが、そうした逆風こそが、「会員が誇りを持てるクラブにしよう」という原動力となりました。自分たちは素晴らしいクラブの一員であるのだ、クラブと仲間を誇りに思えるようなクラブに絶対にするのだ、とみんなで心に誓い、今に至っています。

では、私たち新設のオンラインクラブが既存のクラブから対等と認められるにはどうすれば良いのか。創立当初、手さぐりの中、見つけたのが、RI 会長賞でした。RI 会長から賞を授与されれば、公式にも一人前のクラブとして認められることになるに違いないと思い、RI 会長賞の受賞を目標に活動計画を立てました。そのためにマイロータリーの登録も行いました。

そして、目標を達成し、創立年度から RI 会長賞を頂くことができました。

しかしながら残念なことに、賞の受賞は地区内でのクラブの認知度アップにはあまりつながりませんでした。というのも、地区内に RI 会長賞を受賞したクラブは過去に一つもなかったため、賞の存在自体を会員が知らなかったのです。受賞したと言っても、それ、何？という反応でした。

それにもめげず、私たちはコロナ禍の 2 年間を除き、ロータリー賞を地区最多、過去 5 回受賞し



国際ロータリー第 2720 地区
2720 Japan O.K. ロータリー E クラブ
創立会長 植山朋代



ています。もちろん、賞を受賞することがクラブの活動の目的になってはいませんが、私たちのクラブの運営と歩みが、確かな方向に向かって進んでいるという証になっていると確信しています。

私たちの強みは、距離を超えたつながりと、柔軟な発想です。2022年に始動したクラブ戦略計画では、優先事項1「より大きなインパクトを与える」の第1項として、「グローバル補助金を使って国際奉仕事業を行う」を

掲げました。現在進行中のプロジェクトは、フィリピン・シキホール島の子どもたちへの教育支援。家庭科を学んでもミシンを見たことがない——そんな環境を変えるべく、日本全国から集められた足踏み式ミシンを修繕し各国に届けている大分工業高等専門学校とタイアップして、現地に届ける計画を進めています。昨年は有志4名で現地視察も行い、島の現状とニーズを直接確認しました。

グローバル補助金の申請やしきみについて学ぶため、昨年度は台湾3501地区竹南千禧RCが実施国クラブとなるプロジェクトに支援国クラブとして参画し、眼科機材を台湾の卓蘭町の保健所に寄贈しました。寄贈式にはクラブから9名の会員が渡航し、現地で寄贈を見守り、台湾のロータリーと親交を深めてきました。また、友好クラブの台北市南山RCとも現在別のグローバル補助金プロジェクトが進行中です。

一方で、地域社会への奉仕にも力を入れています。第2項として「身近で困っているひとたちに手を差し伸べよう」と、社会奉仕事業を挙げています。昨年度からは一人親家庭を対象に、日本の伝統行事である七五三を祝うプロジェクトを開始。子どもたちへの和服の着付け、親子での写真撮影といった体験を提供する中で、「大切にされている」と感じる記憶を残す支援を行っています。地域の着付けボランティアや美容学校とも連携し、今では30名以上が関わる事業へと発展しました。初めての和服に興奮する子どもたちの姿や、和服に身を包んだ親御さんの満たされた笑顔に、私たちも幸せな気持ちになりました。協力してくれた方々も喜んで下さり、ぜひ今後も継続しよう、と決意を固めました。この子供たちが成長した時に、自分は大切にされて育ったんだと実感し、そしてロータリーのことを思い出してくれて、インターアクターやローターアクターになってくれたら嬉しいなあと思います。

また、優先事項2「参加者の基盤を広げる」に相当するプロジェクトとしてはインターアクトの提唱やオンラインローターアクトの新設にも取り組んできました。一昨年度は大分上野丘高校にインターアクトを提唱しました。昨年度は三村ガバナーから米山奨学生が入れるオンラインのローターアクトのご提案を頂き、今年6月に、米山奨学生や元交換留学生を中心メンバーとして結成される国際的なローターアクトEクラブが認証され、6月にたくさんの方々のご臨席の下、認証状伝達式を執り行うことができました。国内外から外国籍の方を含む21名の



若者がチャーターメンバーとして集まりました。今後の活動が楽しみです。

さらに会員の基盤をひろげるため、クラブではアンダー 30 会員制度の導入を検討しており、これは優先事項 4「適応力を高める」ことにもつながります。私たちは、若い人たちがリーダーシップを学び、発揮できるロータリーの環境を様々なカタチでサポートしていきたいと思っています。「オンラインの例会で親睦が深まりますか？ロータリーを学べますか？」とよく尋ねられます。私は問い返したいです。「月に 2 回か 4 回例会に出るだけで親睦は深まるものですか？」と。

私たちは、優先事項 3「参加者の積極的なかわりを促す」ために、会員の特技や職業を活かした奉仕・文化活動や、メタバース・AI 教室といった斬新な企画に取り組んでいます。一昨年度は地区補助金を活用し、建築家の会員の監修による廃材ベンチの制作と寄贈を行いました。観世流シテ方能楽師の舞台は、毎年誘い合って鑑賞に行きます。日本文化に触れる貴重な機会です。他クラブのボウリング大会に大勢で参加して盛り上げたこともありました。

現在、クラブ会員のうち 20 名以上が地区役員としても活動しており、今後さらに地区と連携した取り組みが期待されます。一昨年度は地区のポリオデーで当クラブがバザーを担当し、貢献できたと自負しています。また、昨年度は連続二回、地区内で最多数の会員が RLI に参加しました。

クラブの例会は創立時からすべてアーカイブされていていつでもだれにでもご覧頂けるシステムになっています。サイトの例会内にはロータリーの友からのおススメ記事をまとめた「ピックアップアーティクル」コーナーやクラブ研修リーダーを務める小生の「ロータリーの魅力発見」コーナーを設け、多彩なロータリー情報を発信しています。

例会を含め、あらゆる機会が学びと絆づくりに生かされています。もちろん、県外の会員がなかなか事業に参加できないというデメリットや、参加できるメンツが固定している等の、悩みもあります。誰もが、何らかの形でクラブに関わっていけるように、みんなで心を砕いていくことは今後の課題と思っております。

優先事項 4「適応力を高める」という項目ですが、私たちはすでに時代に適応した革新的なクラブとして活動しているつもりですので、今後の目標を模索中です。

私たちは、オンラインという特性を最大限に活かしながら、in person(対面・リアル) の温かさも大切に、時代に適応したクラブとして進化し続けています。「Inspire and Action」の精神のもと、次の 3 年間も、会員が誇りを持ち、仲間と共に歩むことができるクラブを目指して、一步ずつ前進してまいります。これからも、2720JapanO.K. ロータリー E クラブをご指導ご支援下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025 年 5 月 ロータリー会員数報告

グループ	クラブ名	年 初 7月1日	本年度 入会者	本年度 退会者	本年度 増減	当月末 会員数
熊本第一	山 鹿	12	1	0	1	13
	玉 名	48	8	7	1	49
	荒 尾	34	2	2	0	34
	玉 名 中 央	8	0	1	-1	7
	(4 RC)	102	11	10	1	103
熊本第二	阿 蘇	32	2	2	0	32
	肥 後 大 津	26	0	1	-1	25
	菊 池	17	0	0	0	17
	肥 後 小 国	13	1	2	-1	12
	熊 本 菊 南	16	0	3	-3	13
	熊本'05福祉	9	0	0	0	9
	熊本りんどう	17	1	0	1	18
	(7 RC)	130	4	8	-4	126
熊本第三	熊 本	87	12	9	3	90
	熊 本 東	41	5	9	-4	37
	熊 本 北	5	0	0	0	5
	熊 本 東 南	41	0	3	-3	38
	熊 本 城 東	30	2	3	-1	29
	熊本城東Yon-Nasse衛星	0	12	3	9	9
	熊本グリーン	21	2	3	-1	20
	熊本平成	23	0	4	-4	19
	熊本水前寺公園	9	0	2	-2	7
	(8RC+1衛星C)	257	33	36	-3	254
熊本第四	熊 本 南	64	5	3	2	66
	熊 本 江 南	53	9	5	4	57
	熊 本 西 南	24	2	0	2	26
	熊 本 西	6	2	0	2	8
	熊 本 中 央	25	0	0	0	25
	熊 本 西 稜	21	2	6	-4	17
	(6 RC)	193	20	14	6	199
	八 代	76	4	5	-1	75
熊本第五	八 代 北	21	3	1	2	23
	八 代 南	44	4	4	0	44
	宇 土	14	0	0	0	14
	八 代 東	42	8	3	5	47
	(5 RC)	197	19	13	6	203
熊本第六	人 吉	48	4	0	4	52
	水 俣	23	3	2	1	24
	多 良 木	20	0	1	-1	19
	芦 北	22	1	0	1	23
	人 吉 中 央	34	1	2	-1	33
	(5 RC)	147	9	5	4	151
熊本第七	天 草	48	1	0	1	49
	牛 深	19	0	3	-3	16
	西 天 草	21	1	2	-1	20
	天 草 中 央	39	6	3	3	42
	天草パールライン	15	0	1	-1	14
	(5 RC)	142	8	9	-1	141
熊本40RC+1衛星C計		1,168	104	95	9	1,177

グループ	クラブ名	年 初 7月1日	本年度 入会者	本年度 退会者	本年度 増減	当月末 会員数
大分第一	中 津	46	1	1	0	46
	日 田	53	1	1	0	53
	中 津 中 央	17	0	0	0	17
	日 田 中 央	42	1	0	1	43
	玖 珠	16	2	1	1	17
	中 津 平 成	25	0	0	0	25
大分第二	(6 RC)	199	5	3	2	201
	豊 後 高 田	39	2	1	1	40
	宇 佐	26	0	0	0	26
	杵 築	13	0	1	-1	12
	杵築One heart衛星	7	0	0	0	7
	く に さ き	19	1	0	1	20
	宇 佐 八 幡	26	0	0	0	26
	宇佐2001	23	2	2	0	23
	(6RC+1衛星C)	153	5	4	1	154
	別 府	39	2	1	1	40
大分第三	別 府 北	34	2	1	1	35
	別 府 東	42	3	0	3	45
	日 出	15	1	0	1	16
	別 府 中 央	18	0	2	-2	16
	湯 布 院	12	2	1	1	13
	(6 RC)	160	10	5	5	165
	大 分	49	11	6	5	54
	大 分 東	31	7	2	5	36
	大 分 臨 海	52	2	3	-1	51
	大 分 南	37	7	2	5	42
大分第四	大 分 中 央	86	8	4	4	90
	大 分 1985	27	1	1	0	27
	大 分 城 西	28	2	2	0	28
	大分キャピタル	56	2	0	2	58
	2720J.O.K.REC	51	13	3	10	61
	大分Oli Oli	23	1	0	1	24
	(10RC)	440	54	23	31	471
	竹 田	18	5	2	3	21
	佐 伯	30	2	0	2	32
	臼 杵	31	3	2	1	32
大分第五	津 久 見	34	2	5	-3	31
	豊 後 大 野	12	1	2	-1	11
	佐伯MARINE	30	4	3	1	31
	(6 RC)	155	17	14	3	158
	大分34RC+1衛星C計	1,107	91	49	42	1,149
	74RC+2衛星C総計	2,275	195	144	51	2,326

RI2720 地区事務所

〒860-0807 熊本市中央区下通 2-7-7 R-terrace4F

TEL.096-312-2720 Fax.096-355-2720

E-mail : ri2720gof@eos.ocn.ne.jp



2025-2026 年度 国際ロータリー第 2720 地区

2025 年 5 月 ローターアクト会員数報告



クラブ名	年 初 7月1日	本年度 入会者	本年度 退会者	本年度 増減	当月末 会員数
八 代 RAC	10	3	0	3	13
人 吉 RAC	7	1	1	0	7
熊 本 南 RAC	9	3	2	1	10
熊本火の国RAC	9	2	0	2	11
熊本城東 RAC	6	1	0	1	7
熊本東南 RAC	10	13	0	13	23
熊本グリーンRAC	2	1	1	0	2
津 久 見 RAC	8	1	0	1	9
大 分 RAC	9	0	0	0	9
別 府 RAC	11	4	1	3	14
別 府 北 RAC	5	1	0	1	6
日田中央 RAC	14	2	0	2	16
大分中央 RAC	5	15	0	15	20
E クラ ブ RAC		21	0	21	21
計	105	68	5	63	168

※5 月末時点での会員数です。

その他の項目については次号以降反映予定としております。

7

July

今月の予定



11 日 (金) 熊本第六グループ 公式訪問

15 日 (水) 熊本第二グループ 公式訪問

17 日 (木) 大分第一グループ 公式訪問

19 日 (土) 米山夏季セミナー

26 日 (土) クラブ活性化ワークショップ

30 日 (水) 熊本第一グループ (山鹿・玉名・荒尾・玉名中央) 公式訪問



寄附金のご協力感謝いたします



第10回米山功労者
メジャードナー



八代ロータリークラブ
赤城 義晋 会員

マルチプル・
ボール・ハリス・フェロー



2720 JAPAN
O.K.ロータリーEクラブ
松富 智春 会員
(6回目)

マルチプル・
ボール・ハリス・フェロー



2720 JAPAN
O.K.ロータリーEクラブ
植山 朋代 会員
(1回目)

ボール・ハリス・フェロー



2720 JAPAN
O.K.ロータリーEクラブ
佐藤 知博 会員

ボール・ハリス・フェロー



2720 JAPAN
O.K.ロータリーEクラブ
田中 省吾 会員

物故会員

謹んでご冥福をお祈りいたします



鋤馬把 祥二 会員

すきまわ しょうじ

八代ロータリークラブ

2025年4月28日

ご逝去（満67歳）

2000年9月6日入会

ロータリ歴24年7ヶ月

入退会者のお知らせ

2025.6.20 現在

入会者

新会員をご紹介します

クラブ名	氏 名	職業分類
宇佐 2001	徳永 浩幸	介護機器販売業
大分	榎 徹	その他プロスポーツ
大分中央	佐々木 大	生コンクリート販売
大分中央	葛城 遼	生命保険
津久見	寺元 和彦	セメント製造
熊本東	熊宮 照男	造園業
熊本江南	藤本 祐弥	測量
熊本西南	似内 眞也	生命保険
八代東	坂田 隆介	肥料製造及び販売
八代東	渋谷 啓子	運輸・水運業
八代東	塚本 真哉	園芸農業
八代東	田川 三男	園芸農業
宇土	西岡 信之	建築資材販売
宇土	中口 裕英	内装仕上業
人吉	有村 充広	ホテル

退会者

クラブ名	氏 名	職業分類
大分	中村 直樹	電気事業
大分	矢野 博久	光学製品配布
大分	大重 誠也	電気通信設備
大分	緒方 正朋	ゴルフ場
大分	浦川 潤	全国放送
大分	阿部 成善	名誉会員
大分東	川崎 栄一	建築
大分東	那賀 圭介	自動車販売
大分東	幾留 秀樹	精密機械製造
大分東	寺崎 文美	飲食業
大分臨海	首藤 治顕	産業廃棄物処理
大分臨海	田口 富造	料理店
大分臨海	今里 臣児	レストラン
大分臨海	石川 良一	電気事業
大分臨海	山川 和	通信電話事業
大分南	津田 修二	情報通信設備
大分南	草野 達也	塾経営・講師業
大分南	松下 和宏	印刷業
大分南	高井 道晴	名誉会員
大分 1985	阿南 亜由美	エステサロン
大分城西	首藤 哲也	レストランチェーン経営

クラブ名	氏 名	職業分類
熊本東	松本 欽也	電材販売
熊本東南	山坂 哲生	タクシー業
熊本城東	寺尾 康輔	フレキシソ製版
熊本城東	工藤 博	寝具卸売業
熊本平成	藤本 智久	造園業・土木業
熊本平成	吉田 末春	行政書士
八代	篠崎 禎久	都市ガス供給
八代	中川 静也	高等学校
人吉	有村 知洋	ホテル
八代南	巖 繁行	資源リサイクル業
天草	向 徹	菓子製造配布
天草	益田 和明	税理士
天草	木村 浩	パン製造配布
天草中央	松崎 慎介	事務用品販売
天草中央	川本 健輔	旅行社
天草中央	井立 伸一	小学校
天草中央	梅本 実道	仏教
天草中央	田中 大地	水道工事
天草パールライン	森内 一	鉄工業